

登録コード	UAB08600	開講年度	2026				
授業題目	日本語文化AR				担当教員	渡邊 匡一	
					副担当	中澤 光平	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー 非該当							
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学							
【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					言語や文学に関する歴史的議論などを通じて、日本語社会における言語や文学の認識変容を学び、その歴史的流れを把握し、かつ批判的に検証する能力を身につける。		
【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					近代日本語に関する文献資料の収集と調査を通じて、文献学に基づく分析手法を身につけるだけでなく、日本文学と日本語学の分析手法を融合し、現代社会に適用し発展させることができるようになる。		
【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					近代における日本語文献コミュニケーション論への理解を深め、現代日本語社会の多様性の背景を認識し、解決すべき課題が抽出できるようになる。		
【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					言語や文学に関する歴史的議論などを通じて、日本語社会における言語や文学の認識変容を学び、その歴史的流れを把握し、かつ批判的に検証する能力を身につける。		
(2)授業の概要		近代日本語についての文献を題材として、その解読・読解に関わる諸問題への対処方法を実習的に学ぶ。授業理解に基づき、受講者が課題発表で十全な説明ができるようになることを到達目標とする。なお、ここでいう近代日本語とは、日本語史を古代と近代に二分した場合の近代日本語を指す。上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・回答を往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生には課題論文の読み込みや、資料読解・解読の実践を課す。					
(3)授業計画		第1回：ガイダンス（全15回の概要説明） 第2回：旧字体と新字体 第3回：歴史的仮名遣いと現代仮名遣い 第4回：ローマ字 第5回：漢字と当て字、熟字訓 第6回：仮名と外来語音 第7回：ローマ字と分かち書き 第8回：2～7回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 第9回：幕末明治期の教科書（藩文庫から国定教科書へ） 第10回：日本近代文学史の成立 第11回：近代における古典の成立 第12回：近代における現代文学の成立 第13回：戦後における古典の位置づけ 第14回：戦後における近代文学の位置づけ 第15回：9～15回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 定期試験は実施しない					
(4)成績評価の方法		第8回と第15回に行うプレゼンテーションとディスカッションを、文献学的方法を方法論としてどれほど体得できたか、研究実践として用いられるようになったかという基準でそれぞれ50点で判定し、その合計点で評価する。					
(5)成績評価の基準		成績評価の方法に記した点数に基づき、90点以上を秀、80点～89点を優、70点～79点を良、60点～69点を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。					
(6)事前事後学習の内容		1）プレゼンテーションのための事前準備には、参考書や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 2）必ずレジュメを準備すること。（パワーポイントの利用は任意） 3）利用した参考文献は全てレジュメに明記すること。					
(7)履修上の注意		出席は前提。無断欠席・遅刻は厳禁。 やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。					
(8)質問、相談への対応		授業外での質問は、メールでアポイントメントをとった上で、研究室を訪ねられたい。 メールアドレスは、渡邊は、kwata@shinshu-u.ac.jp、中澤は、kohein@shinshu-u.ac.jp。					
【教科書】		テキスト（論文等）は授業中に配布する。					
【参考書】		芳賀矢一『国文学史十講』富山房 尾山慎『日本語の文字と表記 学びとその方法』花鳥社 他、随時授業内にて紹介する。					